

## 論文の内容の要旨

論文題目 歴史の応用を学習する方法の開発  
—歴史的類推を現代の問題解決へ—  
氏名 池尻 良平

本論文の目的は、歴史的類推を現代の問題解決に応用する力を育成する学習方法を開発することである。

第1章では歴史独自の学習価値と歴史教育の目標の推移を整理し、歴史を応用することの重要性と意義を示す。その後、歴史学習に関する研究的背景を広く整理し、本研究の位置づけを提示する。さらに、歴史的類推に関する先行研究を整理した上で、歴史的類推を現代の問題解決に応用する力を育成する効果的な学習方法が未確立である現状を示す。以上をまとめ、本論文の目的を導出する。なお本論文では「歴史的類推」を「歴史上の類似した社会的な経験を現代の場面に適用すること」と定義する。

第2章では歴史的類推を促す学習方法についての視座を示す。学習方法の参照になる知見としては認知心理学における転移研究があるが、歴史的類推には特有の問題点があるため、転移の促進方法だけでは不十分である。一方で、先行研究における歴史の学習方法は歴史的類推とは異なる学習目標を促す方法であり、従来の歴史の学習方法だけでも不十分である。これらを踏まえ、歴史的類推特有の問題点に対処できる方法としてゲーミング・シミュレーションに着目し、開発に当たってのフレームワークを得る。また、歴史的類推にはどのような効果があるかを再度整理し、多面的な原因の構造分析と多様な解決法の生成という2つの学習効果があることも示し、方法論的に2つの異なるデザインが必要であることを述べる。

第3章では、歴史的類推を現代に応用した際の学習効果のうち、原因分析に焦点を当て、歴史の因果関係を現代の問題の原因分析に応用する力を育成するための学習方法をデザインした。具体的には、因果関係を可視化するコンセプトマップ、歴史の各要素をパッケージ化したカードと、現代の各要素をパッケージ化したカード、さらに異なる観点を持つ学習者を含むツールを準備した。次に、それらを用いて歴史上の原因・問題・解決法・結果の因果関係の構築、歴史の各要素と現代の各要素の類似性の検討と類似性の相互確認、現代の原因と問題の因果関係の把握、現代の原因分析と解決法の生成、最後にリフレクシ

ョンをさせるゲーム・ルールをデザインした。そして、それらのツールとゲーム・ルールを連動させることで、[1] 歴史の個別事象の理解、[2] 歴史の因果関係の理解、[3] 歴史の原因と問題に対応する現代の事象の考察、[4]現代の原因と問題の因果関係の構築、[5]現代の解決法と結果の因果関係の構築、という段階的な学習プロセスを促した。以上の学習方法の効果を測定するため、高校生を対象に評価を行った結果、「歴史的な事象から同じ性質の現代の事象を結びつける力」と「現代の問題の因果関係を歴史的な問題の因果関係を参考に分析する力」を育成させることに効果的であることが実証された。

第4章では歴史的類推を現代に応用した際の学習効果のうち、解決法の生成に焦点を当て、世界史における多様な人物が関与した歴史的な事象を現代の日本の経済を活性化させる政策の生成に応用する力を育成する学習方法をデザインした。具体的には、歴史上の問題解決をパッケージ化したカードと、現代の要素を想起させる素材、異なる現代を知っている学習者を含むツールを準備した。次に、それらを用いた歴史的な事象の説明、現代の日本の都道府県の特徴を活かした政策の説明、相手チームによるその政策の問題点の指摘と改善策の説明、それらを繰り返して政治・経済・文化・社会の4カテゴリーの歴史的な事象を現代の政策に変容させるというゲーム・ルールをデザインした。そして、それらのツールとゲーム・ルールを連動させることで、[1]歴史の個別事象の理解、[2]現代の文脈に沿った政策への変更、[3]歴史と現代の文脈的差異の表出化、[4]より現代の文脈に沿った政策への変更、[5]多様な類推経験という段階的な学習プロセスを促した。以上の学習方法の効果を測定するため、高校生を対象に評価を行った結果、歴史上の政策を類推のベースにして、現代の問題の解決法を多様に生成できる力を育成させられることが実証された。

第5章では2つの学習方法をもとに総合考察を行い、歴史的類推を現代の問題解決に応用する力を育成する学習方法の全体モデルを提示した。図1がその全体モデルである。まず歴史的類推を通して現代の問題の新しい原因を取得するか、新しい解決法を取得するかを決める。いずれの場合もパッケージ化された歴史と想起された現代の要素を用いて相手に類似性を説明することで歴史的な事象を現代化させる。次に、原因分析の場合は構造的な妥当性で、解決法生成の場合は文脈的な妥当性で異なる学習者に反論させることで、歴史的類推が相互評価されるようにする。その後、歴史と現代の残りのズレが可視化されるツールを用いて徐々に現代の因果関係を構築させる。そしてこれを繰り返すことで、歴史的類推から生まれた原因と解決法を増やしていく。最後に、それらの原因と解決法を用いて因果的な問題解決ストーリーを作らせ、異なる学習者を説得させる。これらの一連の学習

方法を行うことで、歴史的類推を現代の問題解決に応用する力が育成されるというのが本論文の結論である。

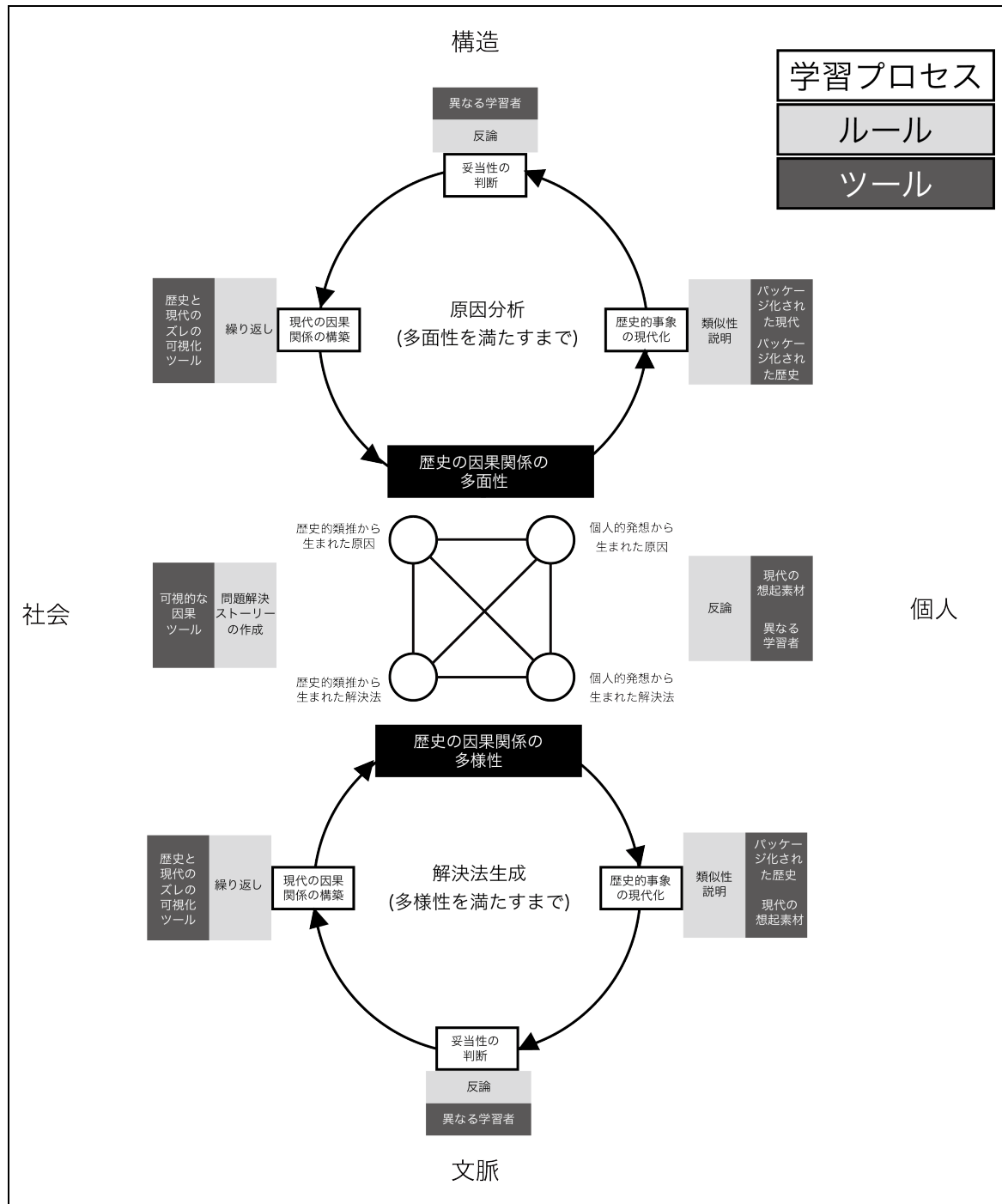


図1 歴史的類推を現代の問題解決に応用する力を育成する学習方法の全体モデル